

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	医療法人社団 洛和会	代表者	矢野 一郎	法人・ 事業所 の特徴	母体は京都市山科区にある音羽病院の介護事業部門の施設。同会においては市内で5番目、平成26年4月にここ竹田・住吉学区で初めての小規模多機能サービスとして設立。「地域に頼りにされる施設」をモットーに日々、取り組んでおります。また月々定例の催しを開催して活発な地域交流が自慢の施設です。
事業所名	洛和小規模多機能 サービス伏見竹田	管理者	小北 稔美		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	0人	1人	1人	0人	0人	1人	0人	2人	0人	5人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	改善計画にそって取組みを行い、自己評価をすることで事業所の強みや弱みを理解しさらなる発展に努める。	自事業所内での取組みに関しては、職員も理解を深めている。その他のサービス機関との連携部分では、次年度と同じく職員の意識が低い結果となった。	出来ていない事が多いことについての原因を分析できて経過をたてられている。計画についても実施しやすく達成できたかどうかのわかりやすい計画がたてられており評価出来る。	地域連絡会の参加やネットワークなどその他のサービス機関との関わりを議事録だけではなく職員にも参加してもらうことで連携の大切さを理解してもらう。
B. 事業所のしつらえ・環境	中だけでなく外回りの清掃もしっかりおこない、季節感のある装飾を玄関に展示したり外部の方が入りやすい雰囲気作りに取り組む。	利用者の方に玄関の掃除をしてもらうことでその方の役割となっている。装飾も季節感を感じれるものになっている。	玄関に季節感のある装飾が置かれている。クールスポットなどもっと地域にむけて施設がわかりやすくしたほうがよい。のぼりなど立ててみてはどうかとの意見があった。	外部からの来訪や施設の外でも、笑顔で挨拶を行い装飾などで施設の明るい雰囲気を伝えられるようにする。
C. 事業所と地域のかかわり	地域の方に向けた見学会を毎月実施し、相談しやすい事業所のアピールを行う。	毎月の見学会も参加しやすいような工夫を行っているが、参加者が少ない。吹き矢、カフェに関しては、継続して行えている。	吹き矢などの取組みにより関わりを深められているが事業所から地域にむくことも必要ではないかとの意見があった。職員全員がかかわれるようにすれば良いと思う。	見学会、吹き矢、カフェに参加された地域の方に、アンケートをおこない地域の方のニーズがわかる取組みを行う。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	イベントやサロンをつかって相談しやすい場所作りをおこない、地域との関係性を大切にしていく。又地域の情報を知るための取組みを行う。(介護相談会など)	吹き矢とカフェの時間に介護相談の時間をとり行えた。みなさん自身の今後についての不安がよく聞かれ、介護制度についての質問が多くあった。	近隣の心配ごとなど今後相談が増える可能性もあるのでこまめな訪問などの対応を地域からはお願いしたい。	介護制度について、分かりやすく説明できる時間を作り事業所から情報を発信できるような取組みも行って行く。
E. 運営推進会議を活かした取組み	運営推進会議の目的を理解していただき、気軽に参加し困りごとや心配ごとなど気軽に話合える場所として地域にも貢献できるような会議作りをしていく。	運営推進会議におなじメンバーになってしまっている。利用者家族には、運営推進会議の取組みの説明と議事録の開示は行えている。	運営推進会議により多くの方が参加できるように工夫ができないか、かふえや吹き矢の後に行なってはどうかとの意見があった。	報告会だけに収まらず、地域の課題にむけて事業所でなにができるかを会議の中心として話あていく。現場の職員や地域の方、利用者家族など参加人数を増やしいけんを求める。
F. 事業所の防災・災害対策	防災計画書を明確に、誰もがわかるように掲示する。また、災害時の事業所としての役割など地域とともに考えて取り組んでいく。	自治会会長。包括センター長にも参加していただき、事業所の防災の取組みを見て意見もいただいた。	災害時、施設として地域の方になにができるか考える機会を作ってはどうか。事業所の防災訓練に地域住民にも参加を呼びかけてはどうかとの意見があった。	消防署とも連携をとり、防災、災害活動に事業所と地域とともに取り組む。【防災訓練・災害時訓練・に参加の声掛け】